

## 令和3年度3学期始業式 式辞（令和4年1月7日）

校長 高瀬知郎

全校生徒のみなさん、新年、明けましておめでとうございます。

令和4年の幕が開けました。2週間の冬休み、それぞれに有意義な時間を過ごしてきたことと思います。年末からお正月にかけて、雪の降る日が続きましたが、みなさんは自宅周辺の除雪作業をしましたか。雪かきは、冬の間、中学生の君たちができる最も身近なボランティアです。家族や地域の方々に喜んでいただけるよう、進んで取り組みましょう。

さて、2学期の終業式でお話した、将来「自分が目指す生き方」について、冬休み中に考える時間をもつことはできたでしょうか。

私は、そのことを考えながらお正月を過ごしていて、テレビ番組で気になる人に出会いました。3日にKNBで放送されていた「きのどくな～ありがたい富山のスゴイ人列伝」という番組です。題名どおり富山のスゴイ人達が、立川志の輔さんと柴田理恵さんの軽妙なトークで紹介されていたのですが、その中のお一人、藤井<sup>かずみち</sup>一至さんという方がその人です。藤井さんは、現在、つくば市にある国立森林総合研究所にお勤めの農学博士で、土壌つまり土の研究の第一人者です。番組では、藤井さん自身の説明で、世界中を調査して回り12種類の土の標本と世界の土の分布図を新しくつくられたことや、日本の土は4種類あり縄文時代から100年に1cmのペースで積み続けていること等、土に関する面白いお話を次々と聞かせてくださいました。なんと、私たちが毎日口にしている食物の95%は土由来のもので、残り5%のみが海から得ているものなのだそうです。つまり食べている物のほとんどは土から生まれていたのです。そして、微生物の活発な働きによって土壌が肥えているからこそ、おいしい作物ができる。そう言えば、学校で毎日いただいている給食も、そのほとんどが立山町産の食材で作られているのでした。あんなにおいしい給食をいただけるのも、「立山町の肥沃な土」があってこそだということに改めて気付かされました。

藤井さんは、世界人口が100億を超えたとき、その命を支える農地が不足する可能性があるかと警鐘を鳴らします。そして、安定した食糧を供給するためには「土の研究」が不可欠であると。世界の食糧問題や環境問題の解決につながる藤井さんの研究に、人類の未来がかかっているかもしれないのです。

そんな、世界規模の重要な研究をしておられる藤井さん、なんと「立山町出身」とテレビ画面のテロップにあるではありませんか。富山中部高校卒業後、京都大学農学部に進み、大学院を経て研究者になられたのだそうです。立山町なら、もしかすると雄山中学校の出身かもしれない、そうだったらいいなと思い、早速次の日に校長室にあった同窓会名簿で調べてみたところ、果たしてありました。藤井さんのお名前が。平成9年卒業の本校50回生でした。同じ学年の担任には本校の廣明先生や柳田先生のお名前も。また、一つ下の学年の生徒名簿欄には、松原先生のお名前も確認できました。本校の卒業生には、社会の第一線で活躍されている立派な方がたくさんおられます。ぜひ、みなさんも先輩方に続いて、世の中を支える力となれるよう、本校でしっかりと学び成長してくださいね。

藤井さんの話に戻りますが、なぜ藤井さんは「土の研究」をしようと思われたのか。そのことも話しておられました。なんと、そのきっかけは宮崎駿監督のジブリ映画だったそうです。映画「天空の城ラピュタ」の中で、主人公の一人シータが「人は土を離れては生きられないのよ」という台詞、その言葉から「土って大事なのかなあ」と考えるようになり、ついには土の研究を志すようになったとのことでした。一体どこに人生を左右するきっかけがあるかわかりませんね。

私も「天空の城ラピュタ」も何回か見たことがありますが、そう言えばそんな台詞があったようななかったような、あやふやな記憶しか残っていませんでした。しかし、藤井さんはその言葉からその後の生き方につながる重要なインスピレーションを得ておられる。その違いは一体どこにあるのでしょうか。

おそらくそれは、その人がもつ「アンテナの感度」と「想像力」の違いではないかと思います。大切な情報を細やかにキャッチできる高性能なアンテナと、得た情報から様々に思いを巡らす豊かな想像力をもっているかどうか。このような、大切な情報を得る力や情報を基に考えを発展させていける力は、どうすれば身に付くのでしょうか。

私は、その最も有効な方法こそ「読書」と「新聞」であると確信しています。たくさんの「読書」をすることで、人は活字から多くのことを学ぶことができます。「読書」は単なる趣味ではなく、人の成長に欠かせないものです。これまでスマホやゲームに費やしてきた時間を、ぜひ本を読むことに向けてほしい。1日1時間の読書を日課にしてほしいと思います。まずは、中学・高校の間に、小説等の文庫本100冊を読み切ることを目標としましょう。「読解力」は読書の量と比例して身に付くので、ちゃんとした本を100冊読めば、テスト問題もすらすらと正確に読めるようになってきます。語彙も豊富になり、コミュニケーション力もアップします。そして、人の心や自分の生き方、世の中のいろんなことを深く考えようとする姿勢と思考力が、自然と身に付いてきます。そのようにして、みなさんの先輩方は大切なことを本から学び、自分の人生を築くとともに世の中を発展させてこられたのです。

「新聞」も同じです。毎日読むことで、語彙力・読解力だけでなく様々な教養が身に付きます。まず、どの新聞にも1面に掲載されている「コラム欄」は必ず読みましょう。本校では昨年度から朝学習の時間に2,3年生が専用の書き写しノート使った「新聞コラム学習」に取り組んでいますが、学校を挙げてコラム学習に取り組んでいるのは県下でも雄山中学校だけです。実は、新聞を使った学習の先進校なのです。このように大人も真剣に読んでいる新聞を中学生が読むことで、今世の中で起こっている問題を大人も子供も関係なく世の中全体で共有し、一緒に解決策や対処法を考えることができます。富山県の問題、国の問題、人類全体の問題を、大人任せ人任せにせず、自分事として真剣に考える。そして、「未来の社会をよりよくするために自分はどう生きるか」を、深く考えていくのです。

日本人はこれまで、「読書」と「新聞」を通して教養を高め、世界有数の先進国として国を発展させてきました。次の時代を築いていくのは君達です。世の中をもっと明るく幸せにするという「高き理想」を掲げて、共に手を携え、励まし合いながら学びを深めていきましょう。そして、令和3年度を締めくくるこの3学期を、これまでにないほど充実した時間にしていこうではありませんか。

今学期、雄中生一人一人の学びが深く豊かになることを願って式辞とします。